

認知症に関する相談窓口等

【認知症疾患医療センター】

認知症についての専門医療相談、認知症であるかどうかの診断、認知症の治療を行う医療機関として、県内5カ所の病院を「認知症疾患医療センター」に指定しています。

○日本海総合病院認知症疾患医療センター
(酒田市) TEL 0234-26-2001

○PFC HOSPITAL 認知症疾患医療センター
(新庄市) TEL 0233-22-2125

○篠田総合病院認知症疾患医療センター
(山形市) TEL 023-623-1711

○佐藤病院認知症疾患医療センター
(南陽市) TEL 0238-40-3170

○国立病院機構山形病院認知症疾患医療センター
(山形市) TEL 023-684-5566

- 原則として予約が必要となりますので、事前に電話等で御相談ください。
- 既に他の病院・医院を受診している方、かかりつけ医のいる方は、紹介状を持参してください。診察がスムーズになります。
- 「受診する必要があるか判断できない」「受診させたいけど本人が嫌がる」など、不安なことがある場合は、電話等で御相談ください。



やまがたオレンジドクター

適切な認知症診療の知識・技術や認知症の方とその家族を支える知識と方法を習得するための研修を修了した医師を、ホームページに掲載しています。



※公表に同意を得られた医師の氏名等を市町村別に掲載しています。

山形県認知症相談・交流拠点

「さくらんぼカフェ」では、認知症の方とその家族に対し、電話や面談による相談支援を行っています。



さくらんぼカフェ・
やまがた認知症コールセンター
(公益社団法人認知症の人と家族の会山形県支部)
山形市小白川町2-3-30
月～金 12:00～16:00
TEL 023-687-0387

市町村地域包括支援センター

市町村では、地域の高齢者の総合相談、権利擁護や地域の支援体制づくり、介護予防の必要な援助などを行うため、「地域包括支援センター」を設置しています。



認知症ケアパス

認知症発症予防から人生の最終段階まで、認知症の容態に応じ、相談先や、いつ、どこで、どのような医療・介護サービスを受ければいいのかといった流れを示した「認知症ケアパス」をまとめています。



共生社会の実現を目指して

みんなで学ぼう 認知症のこと

令和6年1月1日
認知症基本法
スタート!



—新しい認知症観—

共生社会の実現に向けて、認知症になったら何もできなくなるのではなく、できること・やりたいことがあり、住み慣れた地域で仲間とつながりながら、役割を果たし、自分らしく暮らしたいという希望があることなど、認知症の人が基本的人権を有する個人として認知症とともに希望をもって生きるという考え方(=新しい認知症観)を国民一人ひとりが自分ごととして理解することが大切です。

認知症とは？

認知症とは、様々な原因により脳に変化が起こることで認知機能が低下し、それまでできていたことができなくなるなど、日常生活に支障をきたしている状態をいいます。

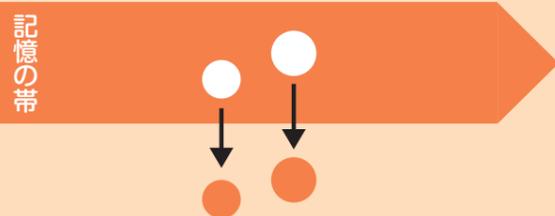
65歳以上の約3人に1人が認知症またはMCI（軽度認知障害）と推計されています。（令和7年時点）



認知症を自分ごととして理解することが必要です！

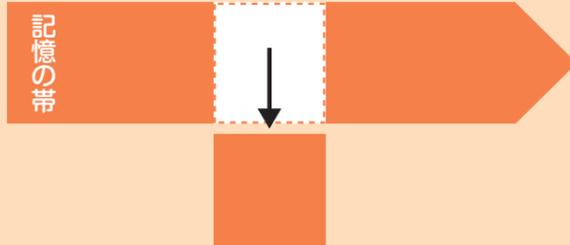
「加齢によるもの忘れ」と「認知症によるもの忘れ」は違います

加齢によるもの忘れ



- ・経験したことが一部思い出せない
- ・朝ご飯のメニューを思い出せない
- ・約束をすっかり忘れてしまう
- ・曜日や日付を間違えることがある

認知症によるもの忘れ



- ・経験したことを忘れていく
- ・朝ご飯を食べたことを忘れていく
- ・約束したことを忘れていく
- ・月や季節を間違えることがある

MCI（軽度認知障害）とは？（MCI：mild cognitive impairment）

日常生活は問題なく送ることができるが、記憶障害などの軽度の認知機能障害があり、正常とも言い切れない中間的な段階をMCI（軽度認知障害）と言います。MCIと診断されても、必ず認知症に移行するとは限らず、適切に対処することで、健常な状態への回復や認知症への移行を遅らせたりすることができる可能性があります。MCIでは、1年で約5～15%の人が認知症に移行しますが、約16～41%の人は健常な状態へ移行するとされています。そのため、気になる場合は早めに医療機関に相談することが大切です。

認知症はすぐに進行するわけではなく、原因となる疾病や人によって進行の仕方は違います。早期に受診し、適切な治療やケアを早く始めることで、進行を遅らせたり、改善が可能な場合もあります。

最近「もの忘れや探し物が増えた」「些細なことで怒りっぽくなった」など様子に変化があり、「あれ？認知症？」と感じたときは、早めの相談・受診が大切です。



認知症サポーター養成講座を受講しませんか？

認知症サポーターは、認知症について正しく理解し、偏見をもたず、認知症の人やその家族を温かく見守る応援者です。近所で気になる方がいればさりげなく気にかける、友人や家族に学んだ知識を伝えることも役割の一つです。

また、認知症の人とその家族の困りごとと、認知症サポーターを中心とした支援をつなぐための「チームオレンジ」の活動も広がりつつあります。「チームオレンジ」は、認知症の人やその家族もチームの一員となって活動しています。

認知症サポーターになるには、認知症サポーター養成講座の受講が必要です。認知症サポーター養成講座は市町村が事務局となって開催しています。開催予定を知りたい、受講してみたいという方は、お住まいの市町村へお問い合わせください。

認知症サポーターには、何かしなければといった決まりはなく、認知症の人やその家族の「応援者」です。認知症について正しく理解し、「応援者」としての第一歩を踏み出しましょう。

家族がつくった「認知症」早期発見のめやす

日常の暮らしの中で、認知症の始まりではないかと思われる言動を「認知症の人と家族の会」の会員の経験からまとめたものです。医学的な診断基準ではありませんが、暮らしの中での目安として参考にしてください。いくつか思い当たることがあれば、専門の医療機関等へ相談してみてください。

●もの忘れがひどい

- 今切ったばかりなのに、電話の相手の名前を忘れる
- 同じことを何度も言う・問う・する
- しまい忘れ置き忘れが増え、いつも探し物をしている
- 財布・通帳・衣類などを盗まれたと人を疑う

●人柄が変わる

- 些細なことで怒りっぽくなった
- 周りへの気遣いがなくなり頑固になった
- 自分の失敗を人のせいにする
- 「このごろ様子がおかしい」と周囲から言われた

●判断・理解力が衰える

- 料理・片付け・計算・運転などのミスが多くなった
- 新しいことが覚えられない
- 話のつじつまが合わない
- テレビ番組の内容が理解できなくなった

●不安感が強い

- ひとりになると怖がり寂しがったりする
- 外出時、持ち物を何度も確かめる
- 「頭が変になった」と本人が訴える

●時間・場所がわからない

- 約束の日時や場所を間違えるようになった
- 慣れた道でも迷うことがある

●意欲がなくなる

- 下着を替えず、身だしなみを構わなくはつに
- 趣味や好きなテレビ番組に興味を示さなくなった
- ふさぎ込んで何をするのも億劫がりいやがる

